

特別研究期間報告書

学科名 国際農業開発学科
職名 教授
氏名 足達太郎

1. 訪問先

- 1) 地理情報の整理と発信のための研究拠点 (Pôle de recherche pour l'organisation et la diffusion de l'information géographique, PRODIG, UMR 8596 —フランス)
- 2) ガストン・ベルジェ大学 (Université Gaston-Berger —セネガル)

2. 特別研究課題

西・中央アフリカにおける農生態学的多様性からみた作物保護の意義

3. 特別研究期間

2025年4月1日～2025年9月30日

4. 特別研究期間中の活動報告

特別研究課題は、西・中央アフリカにおける農生態学的多様性のもとで作物保護がどのように位置づけられるかを検討することであった。客員研究員として滞在したフランスの共同研究ユニット PRODIG では、人文・社会科学系研究者との議論を通じ、農業・環境・社会を統合的にとらえる視点をつかめることができた。自然科学出身の自分がこうした研究ユニットに適合できるか当初はやや不安もあったが、滞在中に多くの学術的刺激を受け、あらたな研究の視角をえる貴重な経験となった。9月には Café PRODIG でセミナーをおこない、自身の研究紹介とセネガル調査の報告をおこなった。

また、PRODIG 滞在中には、フランスにおける学術研究の制度や社会・国家とのかかわりについて、同僚との議論をふまえながら文献調査をすすめ、同国では学術研究を公的資源のもとでささえる仕くみが高度に制度化されている点を理解した。とくに、大学・公的研究機関・学会が役割分担しつつ緊密に連携する体制は、本学が研究力と国際性を高めるうえで参考となるものであった。PRODIG での経験にもとづき、本学および本学科における研究者養成や外部連携のありかたについて、今後も検討をふかめていきたい。

セネガルでは、ガストン・ベルジェ大学と連携し、「緑の長城」計画の事業地の視察と、トウモロコシなど作物を加害する越境害虫ツマジロクサヨトウの圃場調査をおこない、あらたな知見と害虫サンプルを獲得した。

今回の滞在を通じて、フランス語圏アフリカにおける自身の調査基盤を確立するとともに、あらたな共同研究の足がかりをえた。これらの経験は、本学における国際農業開発学および熱帯作物保護学、応用昆虫学にかんする授業や研究指導にも大いに還元できるとかんがえている。自然科学と人文・社会科学の接点にたつ研究者として、活動領域を大きくひろげる機会になったと確信している。